

3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について、自殺統計をみると（第1-5図）、全体的に減少傾向にあり、60歳以上（注）が最も多く、50歳代、40歳代が多くなっている。

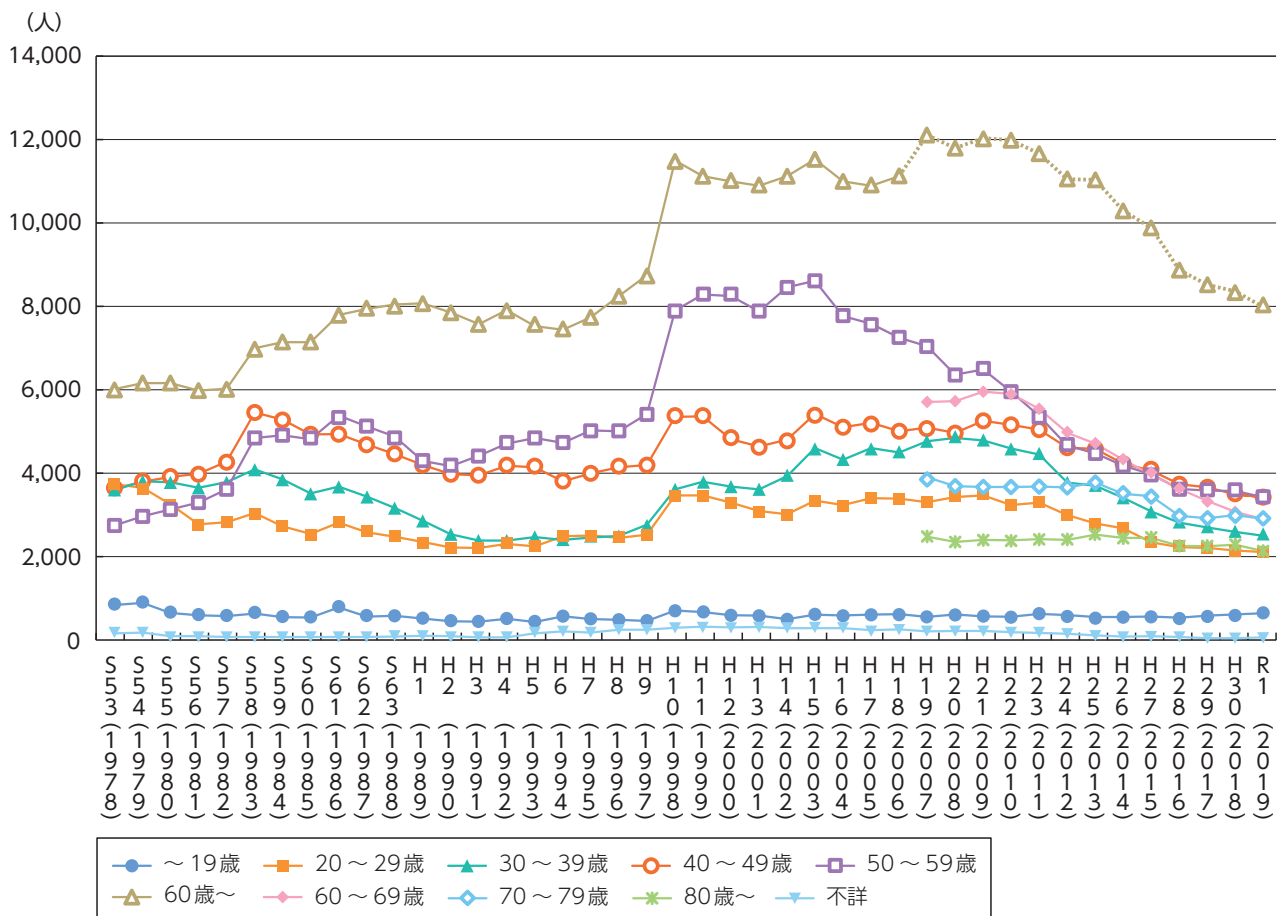
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-6図）、平成10年の自殺者数急増に伴い自殺死亡率も上昇したが、近年は全体的に低下傾向にある。

特に、40歳代、50歳代、60歳以上は、ピーク時から大幅に低下している。一方、20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで、20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さく

なっている。また、40歳代、50歳代、60歳以上は、急増以前の水準より低下している一方、20歳未満及び20歳代は急増以前の水準に戻っていない。

さらに、男女別にみると、男性は、40歳代、50歳代では15年まで上昇傾向にあったが、16年以降は低下傾向にある。一方、20歳代が一貫して上昇していたが、23年以降は低下を続けており、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下している。女性は、20歳代、30歳代、40歳代では上昇傾向にあったが、24年以降は低下傾向にある。

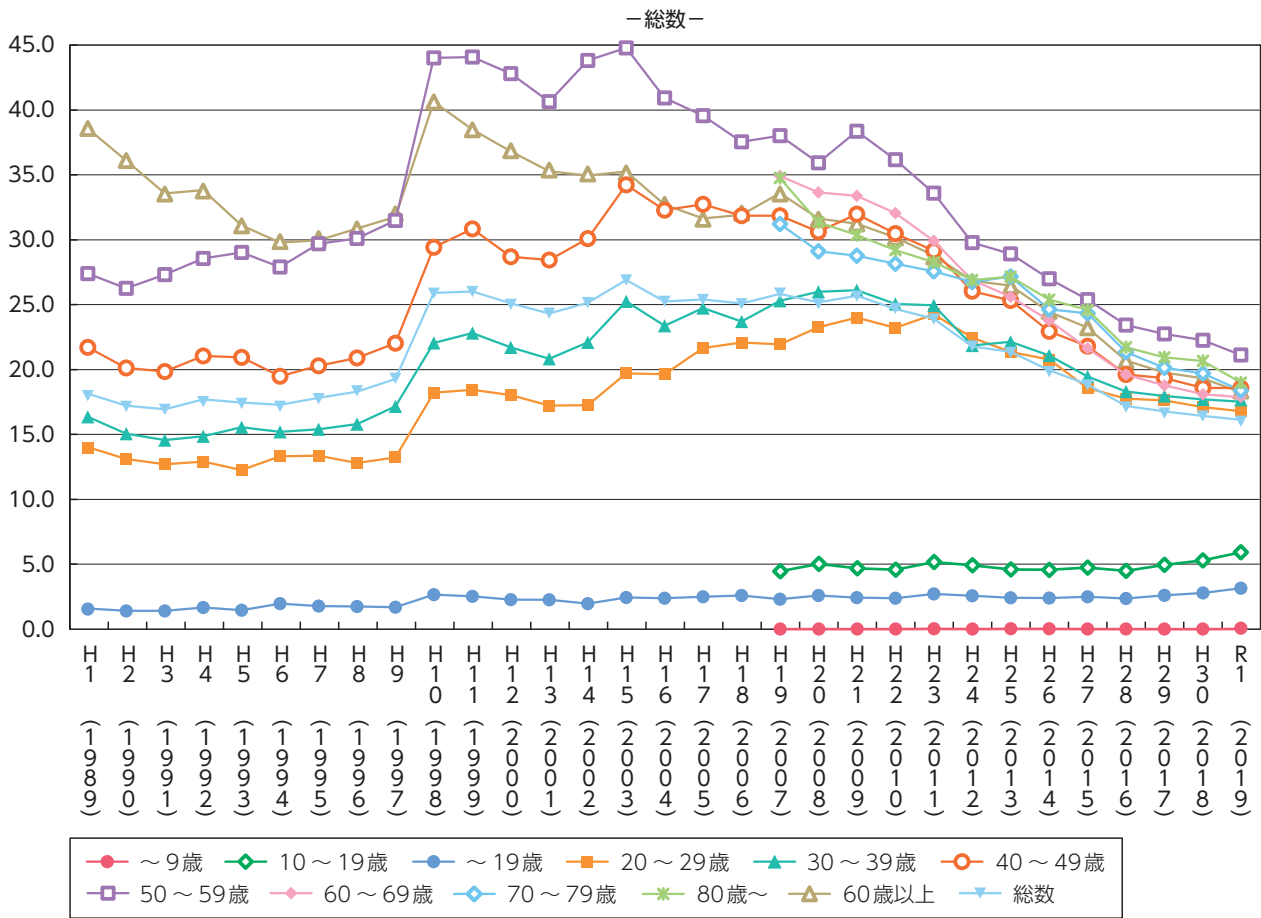
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移

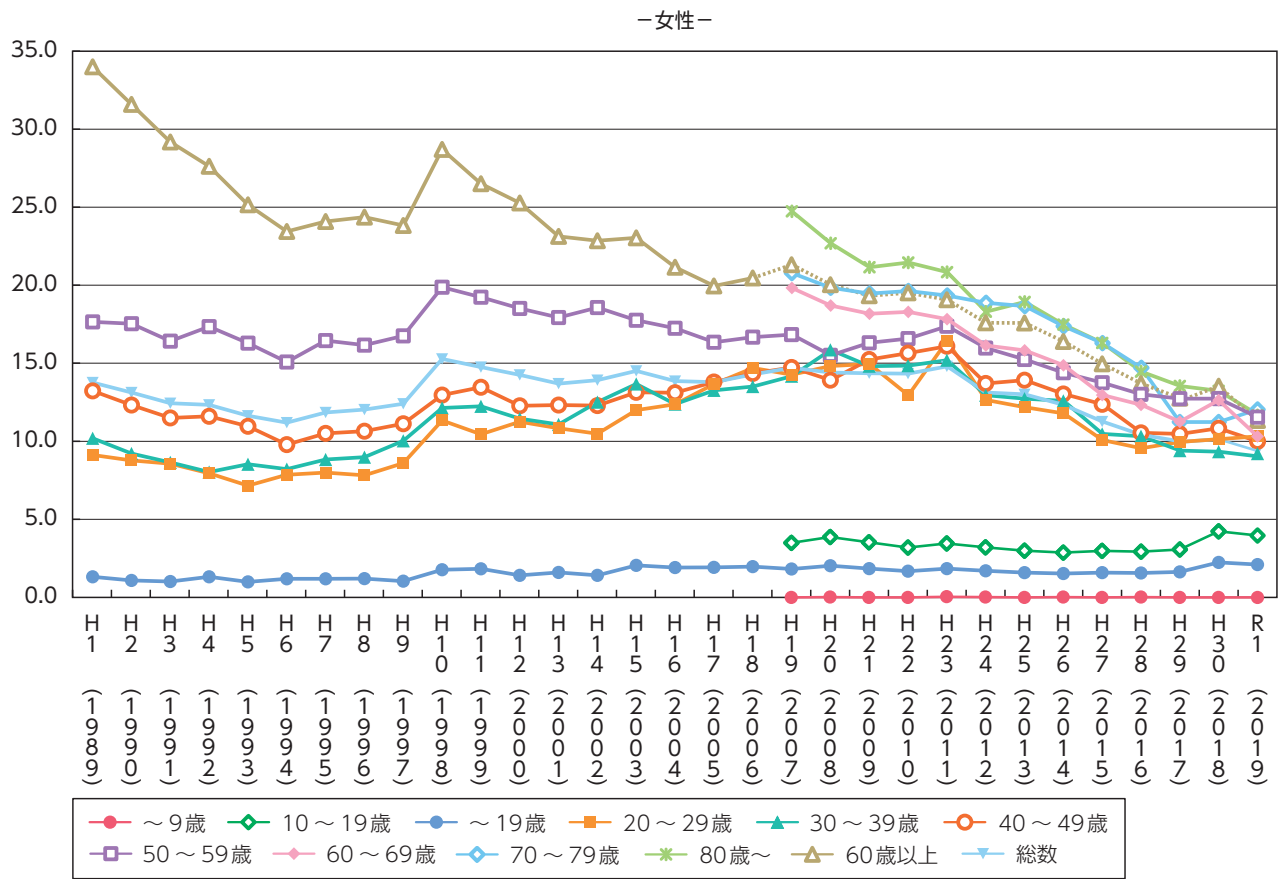
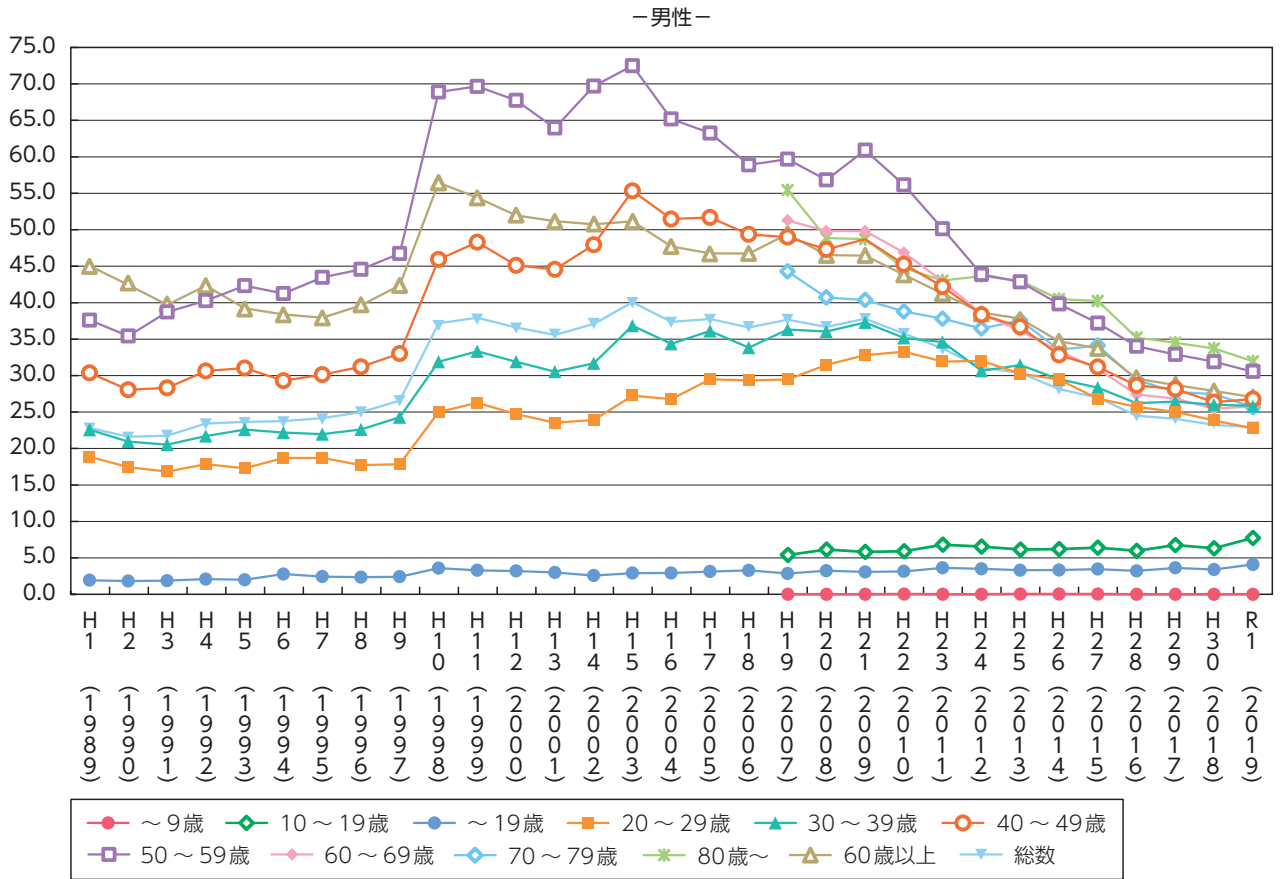


注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-6図 年齢階級別の自殺死亡率の推移





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。
 資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」(国勢調査実施年は国勢調査人口による)より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-7表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は10～44歳において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも15～34歳で死因の第1位が自殺となっている。

第1-7表 平成30年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	114	2.1	24.6	自殺	99	1.9	21.4	不慮の事故	65	1.2	14.0
15～19歳	自殺	503	8.7	44.0	不慮の事故	239	4.1	20.9	悪性新生物	111	1.9	9.7
20～24歳	自殺	1,045	17.5	52.1	不慮の事故	314	5.3	15.7	悪性新生物	160	2.7	8.0
25～29歳	自殺	1,059	18.0	47.8	不慮の事故	257	4.4	11.6	悪性新生物	240	4.1	10.8
30～34歳	自殺	1,235	18.5	39.7	悪性新生物	533	8.0	17.1	不慮の事故	304	4.5	9.8
35～39歳	自殺	1,288	17.2	27.9	悪性新生物	1,086	14.5	23.6	心疾患	420	5.6	9.1
40～44歳	悪性新生物	2,517	28.2	30.2	自殺	1,574	17.6	18.9	心疾患	911	10.2	10.9
45～49歳	悪性新生物	4,698	49.4	33.6	自殺	1,816	19.1	13.0	心疾患	1,719	18.1	12.3
50～54歳	悪性新生物	7,383	89.7	37.9	心疾患	2,436	29.6	12.5	自殺	1,854	22.5	9.5
55～59歳	悪性新生物	11,693	154.8	42.7	心疾患	3,348	44.3	12.2	脳血管疾患	2,008	26.6	7.3
60～64歳	悪性新生物	20,146	267.8	46.5	心疾患	5,328	70.8	12.3	脳血管疾患	2,958	39.3	6.8

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	66	2.4	24.8	悪性新生物	59	2.2	22.2	不慮の事故	34	1.2	12.8
15～19歳	自殺	307	10.3	41.1	不慮の事故	183	6.1	24.5	悪性新生物	76	2.6	10.2
20～24歳	自殺	742	24.2	52.8	不慮の事故	254	8.3	18.1	悪性新生物	101	3.3	7.2
25～29歳	自殺	761	25.3	50.1	不慮の事故	191	6.3	12.6	悪性新生物	130	4.3	8.6
30～34歳	自殺	920	27.0	44.6	不慮の事故	239	7.0	11.6	悪性新生物	224	6.6	10.8
35～39歳	自殺	966	25.4	32.7	悪性新生物	430	11.3	14.6	心疾患	322	8.5	10.9
40～44歳	自殺	1,132	24.9	21.6	悪性新生物	1,003	22.1	19.1	心疾患	717	15.8	13.7
45～49歳	悪性新生物	2,052	42.6	23.4	心疾患	1,340	27.8	15.3	自殺	1,295	26.9	14.8
50～54歳	悪性新生物	3,534	85.1	28.1	心疾患	1,942	46.8	15.4	自殺	1,319	31.8	10.5
55～59歳	悪性新生物	6,430	170.1	35.1	心疾患	2,724	72.1	14.9	脳血管疾患	1,401	37.1	7.7
60～64歳	悪性新生物	12,666	341.0	42.2	心疾患	4,194	112.9	14.0	脳血管疾患	2,062	55.5	6.9

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	55	2.1	27.9	自殺	33	1.3	16.8	不慮の事故	31	1.2	15.7
15～19歳	自殺	196	6.9	49.5	不慮の事故	56	2.0	14.1	悪性新生物	35	1.2	8.8
20～24歳	自殺	303	10.4	50.5	不慮の事故	60	2.1	10.0	悪性新生物	59	2.0	9.8
25～29歳	自殺	298	10.3	42.7	悪性新生物	110	3.8	15.8	不慮の事故	66	2.3	9.5
30～34歳	自殺	315	9.6	30.0	悪性新生物	309	9.4	29.5	不慮の事故	65	2.0	6.2
35～39歳	悪性新生物	656	17.8	39.6	自殺	322	8.8	19.5	脳血管疾患	102	2.8	6.2
40～44歳	悪性新生物	1,514	34.5	48.9	自殺	442	10.1	14.3	脳血管疾患	209	4.8	6.8
45～49歳	悪性新生物	2,646	56.5	50.5	自殺	521	11.1	9.9	脳血管疾患	433	9.2	8.3
50～54歳	悪性新生物	3,849	94.4	55.7	自殺	535	13.1	7.7	脳血管疾患	509	12.5	7.4
55～59歳	悪性新生物	5,263	139.4	58.0	心疾患	624	16.5	6.9	脳血管疾患	607	16.1	6.7
60～64歳	悪性新生物	7,480	196.5	56.1	心疾患	1,134	29.8	8.5	脳血管疾患	896	23.5	6.7

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-8表）、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国（G

7）では日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

第1-8図 先進国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（15～34歳、死因の上位3位）

	日本 2015				フランス 2014				ドイツ 2015				カナダ 2013			
	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	
第1位	自 殺	4,132	16.3	事 故	1,985	12.9	事 故	1,724	9.0	事 故	1,868	19.6	事 故	1,868	19.6	
第2位	事 故	1,633	6.4	自 殺	1,224	7.9	自 殺	1,426	7.5	自 殺	1,012	10.6	自 殺	1,012	10.6	
第3位	悪性新生物	1,300	5.1	R00-R99※	966	6.3	悪性新生物	1,033	5.4	悪性新生物	513	5.4	悪性新生物	513	5.4	

	アメリカ 2015				イギリス 2015				イタリア 2015				韓国（参考） 2015			
	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	
第1位	事 故	34,005	38.7	事 故	2,596	15.3	事 故	1,342	10.5	自 殺	2,237	16.3	自 殺	2,237	16.3	
第2位	自 殺	12,438	14.1	自 殺	1,255	7.4	悪性新生物	794	6.2	事 故	1,152	8.4	事 故	1,152	8.4	
第3位	殺 人	9,593	10.9	悪性新生物	1,060	6.3	自 殺	530	4.1	悪性新生物	835	6.1	悪性新生物	835	6.1	

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10回修正版）の第18章「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に該当するもの

注）「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

資料：世界保健機関資料（2018年9月）より厚生労働省自殺対策推進室作成